令和３年度

自己評価報告書

学校法人晃陽学園

晃陽看護栄養専門学校

１．開催概要

新型コロナウイルス感染の拡大・防止の観点から書面決議にて実施

２．学校関係者評価委員　※敬称略

氏　　名	選任区分
清水　雄二	業界関係者
植木　淳	業界関係者
黒沢　豊	地元有識者
清水　俊明	地元有識者
野村　剛秀	卒業生

Ⅰ.目標

【学校の教育目標】

1、専門職業人としての倫理観を持ち、主体的学習と自己の成長を促すための自発的態度を培う。

2、社会の変革に対応できる視野を持ち、人々の多様な価値観・ニーズを理解する能力を身につける。

3、各分野に関する専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力・問題解決能力を身につけ、的確な実践力を養う。

【各学科の重点目標】

助　　産	・専門的な知識の修得を強化し、的確な助産診断ができるようにする。 ・助産技術の習熟を図り、適切な助産ケアが実践できるようにする。 ・助産チームの一員として役割と責任が果たせるようコミュニケーション技術を高める。 ・教育の質を確保し、学生の教育に対する満足を保証する。 ・国家試験 100%合格、学生の定員確保を目指す。
看　　護	・個々の学生の学ぶ姿勢を大切にし、主体的学習習慣を育てる。 ・基本的な知識を持ち、看護を実践できる能力を育てる。 ・地域の暮らしや生活を理解し、社会変化に適応可能な看護援助に対する視野を育てる。 ・看護倫理に基づいた看護学生としての意識を育てる。 ・看護師国家試験合格率 100%を目指す。
救 急 救 命	・科学的な思考に基づく教育を目指し、高度な医療知識と適切な観察、判断、処置能力を養い、命を繋ぐ使命感と責任ある人材育成を図る。 心構え　①自然な挨拶、礼儀の出来る道徳観のある学生　②清潔な身だしなみの維持　③コミュニケーション能力の向上 ④規律厳正　⑤ボランティア精神の向上　⑥健康管理
歯科衛生士	・学生の定員確保　　・国家試験１００％合格　　・学生の質を確保 ・学生満足度の保証　　・チーム医療の一員として、コミュニケーション能力を身につける
管理栄養士	・幅広い教養と人間尊重の心を持って、人々に寄り添い健康と栄養に関する専門性の高い技術で社会に貢献できる管理栄養士を目指す。
栄　養　士	・人の身体と心を健康にしていく。 ・実践力のある栄養士を育成する。
調　理　師 グランシェフ	・調理師としての知識と技術はもちろんのこと、社会人として恥じぬような立ち居振る舞いができる学生を育てる。
製菓製パン衛生師	・パンや菓子づくりを通して基本を大事にする精神や思いやりを育み、社会に通じる戦力になる人を育てる。 ・国家資格取得に向けて受験生として挑み、日々の勉学に励む人を育てる。

Ⅱ．令和３年度　教職員自己評価集計結果

1. 教育理念・目的・人材育成

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4.1	A	学校の教育目的を基に各学科（専門分野）の教育目標を定めている。さらに各学科において重点目標を定めている。	
② 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	4.0	A	入学前イベント・入学オリエンテーション・学校生活を通して、学生（保護者）に説明している。関係業界においても実習受入れ企業等を中心に周知している。	
③ 学校における職業教育その他の教育指導の特色は明確か	4.0	A	他学科の学生・教員との合同演習など特色を織り込んでいる。学内の各学科と連携できるよう、カリキュラムに反映している。	
④ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4.0	A	学校として、専門職に対する社会のニーズや要請をしっかり把握し、将来構想を練っている。	
⑤ 各学科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4.1	A	各学科の教育目標等において方向付けを行っている。そして社会のニーズに応えられるように当校の教育目標を達した人財を輩出していく。	

2. 学校運営

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.2	A	年度初めの辞令式において校長から提示され、それに応じて学科ごとの方針を策定している。	
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4.3	A	理事会・評議員会等で明確な事業計画が決議され、遂行されている。	
③ 運営組織や意思決定機能は明確化されていて、有効に機能しているか	4.2	A	職務規程、決裁規程により実施。毎年見直しを行っている。	
④ 人事・給与に関する規定等は整備されているか	4.2	A	就業規則により整備されている。	
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4.3	A	決裁規程、マニュアルにより管理し実施している。適宜見直しを行っている。	

⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.4	B	総務部の一部のみで構成されているが、コンプライアンスについて相談を受けられるような体制は整えた。業界や地域社会に対する体制の整備については検討中である。	体制の整備について引き続き検討しながら整備していく。
⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4.1	A	ホームページでの自己評価、学校関係者評価の公開を含め、パンフレット等を含め適切に情報公開を行っている。	
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.8	B	教務・事務に係る業務のさらなる効率化に向けて、最新の情報機器・設備の導入をしていく姿勢をもっている。	情報システム化等においては、引き続き検討しながら導入していく。

3. 教育活動

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4.2	A	学科の特色を生かした教育課程・実施方針を策定している。	
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4.3	A	学則または学科ごとの細則等により明確にされている。	
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.8	B	学科ごとに体系的に編成している。	
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.1	A	他学科の学生・教員との合同演習など特色を織り込んでいる。学内の各学科と教育連携し、カリキュラムに反映している。今年度は県からの要請により、カリキュラム改正を行った。	新カリキュラムへ改正し、令和４年度から運用。運用していくにあたり、どのような影響があるか見ていく。
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.7	B	カリキュラムの作成・見直しは随時実施しているが、全学科において必ずしも連携が十分ではない。コロナ禍の影響もあり、特に関連分野の業界との協力がなかなか得られない点がある。	今後、より連携を強めていきたい。
⑥ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.7	B	学校関係者評価委員会を行っている。 （今年度においてはコロナ禍の状況もあり、縮小での実施。）	実施体制についてより整備していくことが必要。
⑦ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4.0	A	カリキュラムにより位置づけられている。	
⑧ 授業評価の実施・評価体制があるか	3.8	B	学生への授業アンケートを行っているが、学科によっては活用が不十分な状況もある。	全学科において、十分な活用方法を教職員で模索していく。

⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.1	A	各学科においてシラバスを作成しており、記載されている学則・学科ごとの細則を見られるよう明確化している。	
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.9	B	カリキュラムにおける体系的な位置づけはあるが、指導体制については検討の余地がある。	指導体制の見直し、強化を引き続き図る。
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.7	B	各学科教員の確保に取り組んでいる。	引き続き、資質のある教員の確保に努める。
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保に努めているか	3.8	B	各学科教員の確保に取り組んでいる。	引き続き、資質のある教員の確保に努める。
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	3.7	B	看護学科、助産学科では資格取得のための研修制度があり、救急救命学科は国家試験問題作成協力により質の向上に努めている。調理・製菓は姉妹校での研修、管理栄養・栄養士学科も研修会の参加を行っている。	引き続き、教員の積極的な研修・学会等参加の推進に努める。

4. 学生指導（私立専門学校等評価研究機構に記載有）

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
① 基本的生活習慣の確立のための取り組みが行われているか	3.8	B	担任制による毎朝の出席確認、遅刻・早退者への指導、学内での挨拶指導、身だしなみのチェック等、医療・衛生分野にふさわしい取り組みを行っている。また、家庭との連携にも努めている。	より良い指導体制を築けるよう学科間の教職員における連携も深めていきたい。
② 学生・保護者からの相談体制が整備されているか	3.8	B	担任が相談に応じ、希望者には面談を行っている。また、必要時は各学科の責任者との相談体制も設けている。	
③ 通学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	4.1	A	遠方からの入学者には、女子学生会館を完備し、アパート、駐車場の斡旋（不動産会社の紹介）を行っている。就職については求人票の掲示、面談、関連業界を招いての説明会等を行っている。	
④ 学生の安全管理のための取り組み等（災害救済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある学生等への支援など）が行われているか	4.3	A	学校保険の加入、アレルギー体質者への給食指導、持病を持つ学生への注視、保護者との密な連絡体制の構築を心がけている。	

5. 学修成果

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
①　就職率の向上が図られているか	4.0	A	各学科において専門分野への就職率が向上している。	
② 資格取得率の向上が図られているか	4.4	A	各学科において資格取得率の向上を図り、取り組んでいる。今年度の国家試験の結果等を踏まえた上でさらなる対策が必要である。	教員の質の向上、国家試験対策教員の配置等の組織の見直しを図る。
③ 退学率の低減が図られているか	3.9	B	各学科において退学率の低減を図り、取り組むことができている。	意欲が低下している学生へのサポート・相談体制を検討する。
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.6	B	広報担当者、教員が就職先を訪問し、職務に対する意識や活動内容の把握に取り組んでいる。また、在校生については面談等で把握している。	
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.8	B	施設訪問で状況を把握し、教育活動に役立てている。	卒業生を招いての講演会等、在校生の意欲を高めるような企画も検討していきたい。

6. 学生支援

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.9	B	担任制をとり個別面談の実施、求人票の掲示、業界関係者を招いての就職説明会を行っている。また、学科により卒業生の就職試験報告書を自由に閲覧できるような体制をとるなどの工夫をしている。	
② 学生相談に関する体制は整備されているか	3.9	B	担任による個別面談の実施（生活、授業、校外実習など）	休学、退学者への対応において、より充実した相談体制の検討が必要。
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4.1	A	日本学生支援機構の相談、都道府県その他奨学金制度や企業との提携による学費借り入れ制度や民間の教育ローンに関する案内（掲示・配布）、また個別相談等を行い、学費延納にも配慮している。	
④ 学生の生活環境への支援は行われているか	4.0	A	女子学生会館（2 棟）の設置、入学前のアパート・駐車場の斡旋（不動産会社の紹介）、本校の連携企業へのアルバイトの斡旋等を行っている。	
⑤ 学生の健康管理を担う組織体制があるか	4.0	B	年度当初の健康診断の実施および看護教員常駐の保健室を設置している。また、季節、状況に応じた予防接種を実施している。	スクールカウンセラーの配置を検討している。
⑥ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.5	B	栄養・調理・製菓等コンテスト、近隣市町村イベントへの参加（衛生分野）、市の依頼による救護活動の協力（医療分野）等積極的に参加していく姿勢である。コロナ禍の影響により、イベントが中止・縮小で参加できなかった。	コロナが落ち着いたら積極的に参加していきたい。

⑦ 卒業生への支援体制は整備されているか	3.8	B	再就職のための情報提供、相談に応じている。看護学科は国家試験再受験者の学内セミナーへの参加、受験当日の引率、指導を行っている。	
⑧ 関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等が行われているか	2.5	C	定期的な教員の訪問等により連携は行っているが、再教育プログラムの構築までは至っていない。	必要に応じて検討していく。
⑨ 保護者と適切に連携しているか	4.1	A	特に出席日数不足、成績不振の学生の保護者に対しては密に連絡を取り、面談等を行って対策を講じている。定期試験の成績報告は郵送により保護者あてに通知している。	
⑩ 社会人入学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4.3	A	入学時社会人優待制度（検定料の免除、試験の優待など）を設け、志願しやすい体制をとっている。入学後は教育訓練給付金制度の認定を受けた学科の学生に対し、給付金受領の説明、事務手続きを行っている。	
⑪ 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	4.3	A	高校からの依頼による講師派遣、インターンシップの受け入れを積極的に行っている。	

7. 教育環境

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.5	B	やや古い建物（校舎）の設備において不備が生じているが、順次修繕の対応を行っている。	修繕、補強、補充を随時行う。
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.9	B	学外の実習施設（全学科）については、教員による施設訪問、打ち合わせ等を密に行い、施設の確保に努力し規定の時間数の確保を維持している。	
③ 防災に対する体制は整備されているか	3.7	B	校舎については定期的な点検を行っている。コロナ禍の影響により避難訓練を最小限に縮小して行った。実施を行うことで意識付けをしている。	

8. 学生の受入れ募集

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
① 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	4.2	A	ホームページでの発信、広報担当者による学校訪問や進路ガイダンス参加での案内、パンフレット等の配布により、オープンキャンパスの実施等情報提供に取り組んでいる。	

②　学生募集活動は適正に行われているか	4.2	A	広報部の責任者のもと、広報会議における確認、学校訪問記録等のチェックを行っている。次年度入学者数も順調に推移している。	
③ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報が正確に伝えられているか	4.1	A	各学科の資格取得率、就職状況についてはパンフレット等で正確に伝えている。	
④ 学生納付金は妥当なものとなっているか	4.2	A	妥当な金額で設定されている。	

9. 財務

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
① 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3.6	B	新設学科もあり、現状の学生数においては不安定さがある。	新設学科の学生募集の強化に努める。
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.5	B	入学者数の不足している学科においては、収入減が見込まれる。	学生募集の強化に努める。
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	4.0	A	理事会・評議員会において会計監査を適切に行っている。	
④ 財務情報公開の体制準備はできているか	4.1	A	決算書・予算書は事務局に保管、希望により閲覧できる状態となっている。	

10. 法令等の遵守

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.8	B	学科により教員数の増員を必要としている状況はあるが、その他基準を満たしており、定期的な監査でも高評価を得ている。	状況に応じた改善を迅速に行う。
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.3	A	パソコンの個人情報はセキュリティのかかったサーバで保管、管理している。書類は施錠の上、キャビネットに保管している。	
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.8	B	自己評価については令和元年度より実施している。実施方法や問題改善のための取り組みについては検討しているところである。	自己評価委員会の充実を図り、問題点の解決に向けての話し合いを強化していく。
④ 自己評価結果を公開しているか	4.4	A	令和元年度より本校ホームページにて公開している。	

11. 社会貢献・地域貢献

A：適切(5.0～4.0)　B：ほぼ適切(3.9～3.0)　C：やや不適切(2.9～2.0)　D：不適切(1.9～0)

自己評価項目	現状の認識および評価			課題と今後の改善策
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.1	A	小・中学校の家庭教育学級からの依頼による料理教室、高校の体験実習、見学会等を積極的に受け入れている。また、令和２年８月には古河市と災害時の妊産婦避難所設置に係る協定を締結している。	
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4.2	A	古河市と連携をし、市主催行事への参加を積極的に行っている。（マラソン大会の看護・救護協力、防災訓練、病院でのメディカルコントロール協議会との演習、市長とのまちづくり懇談会など）	
③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4.1	A	小・中学校の家庭教育学級からの依頼による料理教室、救急救命学科による救急シミュレーションの実施等積極的に行っている。	

Ⅲ．昨年度（令和２年度）学校関係者評価委員からの意見、質疑に対する到達状況

評価項目	昨年度　意見・質疑	昨年度　学校の応答	今年度時点での到達状況
1，教育理念、目的、人材育成	（意見）国際化、多様性を積極的に取り組んでいただきたい。	現在、留学生の受入れを行っています。「日本の食文化海外普及人材育成事業」等の国の制度も活用し、本校で技術を身につけた留学生への卒業後のフォローも行っています。	引き続き留学生の受入れを行っています。「日本の食文化海外普及人材育成事業」等の国の制度も活用し、本校で技術を身につけた留学生への卒業後のフォローも行っています。
2，学校活動	（質疑）テレワークには対応していますか。	多くの教職員が個人情報等を取り扱う業務を要するため、学外への情報持ち出しについて、情報管理のコンプライアンスの見地からリスクが高く、テレワークの実施については現状難しい状況です。徹底した感染対策を強く意識しながら日々業務に取り組んでいます。	昨年度と同様に、テレワークの実施が難しい状況です。徹底した感染対策を強く意識しながら日々業務に取り組んでおり、未だ教職員内で感染者を出していません。引き続き感染対策を徹底しながら業務遂行をしていくつもりです。
	（意見）投書箱、コンプライアンスホットラインの設置をお願いします。	設置について検討いたします。	コンプライアンス担当は総務部の一部のみで構成しており、相談があれば秘密裏に直接伺っております。現時点ではハラスメントや情報漏洩といった大きなコンプライアンス案件は起きていません。
3，教育活動	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。		
4，学生指導	（質疑）アルバイトの管理や制限はありますか。	基本的にはアルバイトを認めておりますが、あくまでも学業を優先としているため、学科によりアルバイト禁止の制限を設けているケースもあります。	昨年度と同様に、基本的にはアルバイトを認めておりますが、あくまでも学業を優先としているため、学科によりアルバイト禁止の制限を設けているケースもあります。もし成績が芳しくない等学業を疎かにしていた場合、指導しております。
5，学修成果	（意見）学生へのサポート・相談体制を検討するとあるが、学生が増える中、遅いのでは。	すでに本校では全学科において担任制を設け、学生への個別サポート・相談体制を敷いておりますが、学生にとってより良い環境を整えるため、異なる側面からのサポート・相談体制についても検討したいと考えております。	各学科の教員だけでなく、例えば学生相談・支援に関する研修に参加し、職員でも相談できるスキルを身につけられるような内容の実施を検討したいと考えています。
6，学生支援	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。		
7，教育環境	（質疑）リモート授業をどのよう	学科により「Zoom」「Google Classroom」を使用し、一部外部	昨年度からの試行錯誤の末、各学科に「Zoom」のアカウントを

	にお考えか。密にならずに行っているか。	講師等によるリモート授業を行っており、一長一短があるため、試験的に複数のアプリを使用しています。学生の安全を優先しつつも、実習等の授業においてはリモート授業では十分なレベルの維持が難しいケースもあります。授業の実施においては消毒や距離の確保等、万全な感染対策を行った上で行っています。	配布し、一部の講義において外部講師等によるリモート授業を行うようになりました。しかし学生の安全を優先しつつも、やはり実習等の授業においてはリモート授業では難しいです。引き続きリモート授業の実施について模索をしていくとともに、消毒や距離の確保等、万全な感染対策を行っていきます。
	（意見）避難訓練は、学校外においても役立ちますので継続してください。施設の整備は大変と思いますが、適切な対応を望みます。	令和２年度においては、コロナ禍の状況で例年通りの内容での実施はできませんでしたが、毎年９月頃に避難訓練を行っています。施設整備については随時対応しております。	今年度においては、コロナ禍の状況を踏まえた上で９月中旬に行いました。ただし全体では行わず、学生には避難経路のみ確認を担任の教員に指導していただき、教職員には避難経路確認や消火器の使用方法確認などといった現場の状況における行動について当校救急救命学科教員による指導を講義形式でいただきました。
8，学生の受入れ募集	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。		
9，財務について	（質疑）定数に対する入学者数を教えていただけますか。	令和３年度（入学者数/定員数）においては、衛生分野学科（74名/210名　※管理栄養士、栄養士、調理師、グランシェフ、製菓製パン衛生師）、医療分野学科（164名/180名 ※看護、救急救命、歯科衛生士、助産）が入学しております。	今年度入試の（入学予定者数/定員数）において、衛生分野学科（59名/210名）、医療分野学科（161名/180名）が入学する予定です。昨年度と比べ、特に衛生分野で減少したため、今後入学者数が増えるような学校づくりに努めます。
10，法令等の遵守	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。		
11，社会貢献・地域	意見・質疑等は特になく、適正と判断する。		

Ⅳ．学校関係者評価委員からの意見、質疑・学校の応答

評価項目	意見・質疑	学校の応答
1，教育理念、目的、人材育成	努力が伺え、適切に対応されていると思います。 時代の変化に対応して育成に努めていただきたい。	
2，学校活動	見直しも含め、適正に策定されていると思います。	
	（意見）情報システム化は不可欠、人材確保を急いだほうが良いのでは。	情報システムの構築は、専門業者と相談をしながら徐々に進めております。 教職員で情報に関する知識・技術を少しずつ修得しながら、業務の省力化を図っております。
3，教育活動	（質疑）業界との協力がなかなか得られない点は、どのような分野ですか。	基本的にはどの業界でも受け入れてくださいます。 しかし医療分野においては、例えば実習病院先での受け入れ人数を制限されるなど、コロナ禍の影響がまだまだ続いております。 収束後、通常通りに戻ると思います。
	コロナ禍の影響で不十分なのは仕方ない。 今後とも感染対策の充実に努めてください。	
4，学生指導	生徒の立場に立った相談体制は良いと思います。 継続して対応してください。	
	学生を通りで見かける。マナーも良さそうだ。	
5，学修成果	（質疑）コロナ禍による退学者が多いなか、何人くらいの退学者がいますか。	当校では、コロナ禍による退学者はいません。 コロナ禍によって経済事情が変化してしまう家庭の場合においてでも、学生支援機構など様々な奨学金に関する情報を提供しております。
6，学生支援	地域貢献の場を作り、課外活動による市のイベントへの協力に感謝しております。	
	個別面談での個別情報を生かしていただきたい。	
7，教育環境	救急救命学科教員による防災・指導、学校における訓練・地域への協力（災害時の誘導）等、生徒のためにもなるので継続してお願いいたします。	
	防災・避難訓練についてはしっかり行っていただきたい。	

8，学生の受入れ募集	コロナ禍のなか、大変とは思いますが、努力してください。	
9，財務について	安定した学校運営のためにも生徒募集に努めてください。	
10，法令等の遵守	適正に対応されていると思います。 評価委員会で、先生方のお話が聞けること、コロナが収束することを望みます。	
	（意見）書類も重要度にランク分けし、保管セキュリティ強化が必要ではないでしょうか。	書類保管の仕方としては、鍵付き棚で厳重保管をするうえで、例えば所属部署の長でしか閲覧できないようにしています。この例に沿う意味でランク分けをしております。 しかし、情報化社会が進むなか、当校ではまだまだ情報リテララシー観念が薄いと認識しております。情報面においてでも、書類保管のさらなる強化に努めて参ります。
11，社会貢献・地域	引き続き、貢献に努めてください。	